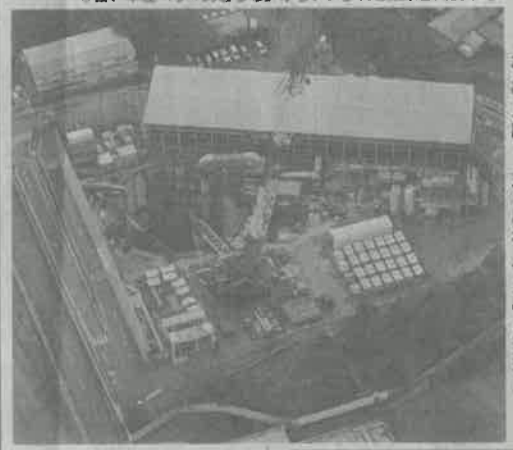
謎の気泡 住民恐々

町田リニア掘進中断

リニア中央新幹線第1首都圏トンネル小野路工区（東京都町田市など）の調査掘進ルートに近い住宅地に水と気泡が現れた問題。工事は中断されたが、地域に不安が広がる。専門家はＪＲ東海に住民への丁寧な説明を求める。（中川紘希）＝❷面参照

❶掘進地点に近い住宅の庭で噴出する水と気泡＝10月23日午前（リニア中央新幹線を考える町田の会提供）

❷リニア中央新幹線の小野路非常口＝6日、本社ヘリ「あさづる」から。いずれも東京都町田市で



識者「工事が原因の可能性」

「ボコボコ」。土に覆われた住宅の庭で、無数の気泡と水が音を立て噴き出し続ける。この現象は10月22日朝に始まり、24日昼まで続いたという。掘削地点から数十メートルの現地を確認した市民団体「リニア中央新幹線を考える町田の会」事務局の奥村憲雄さん（77）は「調布の陥没のような大事故の前触れでは」と懸念する。

調布市の東京外郭環状道路（外環道）の工事に伴う2020年の陥没の前にも、付近の川では気泡が確認された。

地盤工学が専門の日本大理工学部の鎌尾彰司准教授は気泡について「工事が原因である可能性が高い」とみる。「掘削機からの過剰な圧縮空気が地下水と一緒に地表に漏れ出た可能性がある」と話し、現場周辺に、水と空気を通しやすい砂の層が多いことも要因と指摘する。

一方、鎌尾氏は地盤沈下が起きた外環道の現場と地層の条件が異なる小野路工区では、大規模な陥没リスクは小さいとみる。ただ、「大深度地下の工事が地上に影響することが、調布に続き明らかになった。ＪＲ東海は住民に状況を説明すべきだ」と指摘する。

気泡の噴出は交流サイト（ＳＮＳ）でも拡散され、周辺住民に不安が広がる。60代女性は「井戸水に影響しないか」と懸念。自営業の菊地伸彦さん（53）は「地盤沈下などが不安だ」と漏らす。

ＪＲ東海は、地表から50メートル上の気体の酸素濃度を測定したところ、19・7％で、酸素が少なく人体に有害な「酸欠空気」の目安となる18％を上回ったと説明。一方、市民団体が24日に地表面の気泡を採取した結果、その酸素濃度は1％と、数値に差が出た。

芝浦工業大の稲積真哉教授（地盤工学）は気泡の噴出について「工事で地下水の変動などが起き、地上まで噴出した井桁工法によると、2人が2日間、練習や試合で通訳を同行させる契約を結んだが、実際は通訳1人しか付かず指示が理解できないなどの支障が出たとも主張。ミスをした際は男性の監督やコーチからポルトガル語で性器などを意味するののしり言葉を投げかけられたと訴えた。ともに今年7月にうつ状態と診断され、8月から練習に参加できていない。

チームの運営法人も配者会見を開き、通訳を同行させる義務に違反していたと認めた一方、同行させていた時期もあったと強調。監督らの発言については「弁護士と事実関係を調査している」とした。

リニア中央新幹線の大深度トンネル

用語解説

東京・品川―名古屋の約286キロのうちトンネル区間は86％を占める。その中で、地下40メートル以深で地権者と権利調整が不要な「大深度」を通るのは、第1首都圏トンネル36・9キロのうち33・3キロと、岐阜、愛知両県を通る第1中京圏トンネル34・2キロのうち17キロ。政府は2015年の閣議決定で、大深度の工事は地上に影響しないと説明している。

無登録勧誘疑い 6人逮捕

鉱山投資名目 2.7億円集金か

アフリカ・コンゴ（旧ザイール）での鉱山採掘事業への投資を無登録のまま持ちかけ、高配当をうたって株の購入を勧誘したとして、警視庁生活経済課が6日、金融商品取引法違反の疑いで、東京都港区の投資関連事業会社「リートジャパンホールディングス」社長の李基遠容疑者（39）ら男女6人を逮捕したことが、捜査関係者への取材で分かった。

同課は、李容疑者らが2020年7月から21年8月にかけ、全国の約200人から計約2億7千万円を集めたとみている。

逮捕容疑では、国の登録を受けていないにもかかわらず、出資者に自社グループの関連会社の株を購入するよう勧誘したとされる。認否は明らかにしていない。

捜査関係者によると、李容疑者らは自社について「コンゴでコバルト鉱山の採掘事業を手がけている」と説明。「（自社グループの）関連会社の株を購入すれば、毎月15％くらいの高配当を得られる」などと投資を勧めていたという。同課は鉱山採掘事業が架空だったとみている。

警視庁は昨年10月、実態が不明なコンゴの鉱山採掘事業を巡り、元本保証などを約束して投資を募った別の会社社長らを摘発。この関連捜査の過程で今回の事件が浮上し、同庁が5月に関係先を家宅捜索していた。（小倉貴俊）

記者会見する（左2人目から）ラウラ・スペナザットさんとフェヘ・タイスさん＝6日、島根県出雲市で

「通訳同行せず」「監督からセクハラ」

出雲FC ブラジル女性2選手訴え

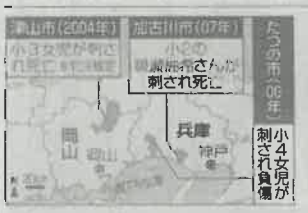
女子サッカー2部リーグ「デイオッサ出雲FC」（島根県出雲市）に所属するブラジル人選手2人が6日、同市で記者会見を開き、チームが通訳を同行させる契約義務を怠った上、監督らからセクハラやいじめを受けて精神疾患と診断されたとして、監督らの解任を求めたと明らかにした。

2人は2022年8月からチームに所属するラウラ・スペナザットさん（26）とフェヘ・タイスさん（25）。日本女子サッカーリーグにも被害を告発しチームを処分するよう訴えたといい、会見でスペナザットさんは「私たちはいじめの収録になるために来たのではない」と語った。

17年前の加古川女児殺害を示唆

服役中の男 逮捕へ

兵庫県警 別の女児刺傷容疑



兵庫県加古川市で2007年10月、小学2年の櫻瀬希さん＝当時（7）＝が刺殺された事件について、岡山県内の殺人事件で無期懲役判決を受け服役中の男（45）が兵庫県警の聴取に関与をほのめかす供述をしていることが、捜査関係者への取材で分かった。

県警は06年に同県たつの市で小学4年の女児を刃物で刺傷したとする殺人未遂容疑で7日に逮捕する方針。櫻瀬さん殺害事件についても供述内容を精査し、慎重に裏付け捜査を進める。

男は18年、岡山県津山市で04年に小学3年の女児＝当時（9）＝を刃物で刺殺したとして逮捕され、22年に岡山地裁で無期懲役判決を受け、後に確定した。

捜査関係者によると、女児を刃物で襲った岡山の事件との共通点などから、当時加古川市に住んでいたこの男が浮上。岡山の事件の判決確定後、県警が任意聴取を続けた結果、加古川市とたつの市の両事件について関与を示唆したという。たつの市の現場周辺のカメラにはリュックサックを背負って立ち去る男が写っており、県警は年代や体格に矛盾がないとみて逮捕方針を固めた。

櫻瀬さんは07年10月16日午後6時ごろ、家の近くの